

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したことになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ほのぼの
所在地 (県・市町村名)	長崎県東彼杵郡東彼杵町
記入者名 (管理者)	前田 喜久子
記入日	平成 19 年 12 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ全員で作上げた理念。住み慣れた地域の中で利用者の思い生き方を受け止め笑顔のある暮らしを支援する。	○	理念に添った介護が出来るようスタッフ間で意識づけていきたい。
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の送り迎え時にスタッフ全員で読み上げ一日の始まりとしている。	○	理念に添った介護が出来ているか自分の介護を振り返るゆとりを持つようスタッフ間で話し合っている。
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関から入った正面の見やすい場所掲示している。又ボランティアの方々には最初に理念の説明をする。	○	スタッフ全員が理念を口にする事が出来、誰が聞いても分かりやすく説明できる。
2. 地域との支えあい				
	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方はグループホームへの理解があり、気軽に声を掛け合ったり相談できる関係である。	○	隣にガソリンスタンドがありホームの利用者にも気配りをしてもらっている。
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業主が地元出身であり自宅から数メートルの所にホームがあるので地域との絆が厚く自治会老人会行事等全て積極的に交流している。	○	管理者が地元の祭礼では奉納踊りに参加し交流を深めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で暮しておられる高齢者の方がグループホームに面会を兼ね遊びに来られ他の利用者と一緒に楽しく過ごし喜んでもらっている。	○	地域の高齢者の方にほのぼの杯グランドゴルフ大会を行ったところ好評だったので今後も年一回程取組んで行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することにより自分の介護を振り返り課題を見つけ利用者のよりよい暮らしを支援出来るよう全職員が認識し外部評価を前向きに捉え改善していくよう話あっている。	○	評価の有無を問わず利用者の暮らしやすさを環境面心理面から追求し改善できるところから取り組んで行く。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、家族代表、地域包括支援センターに呼びかけ二ヶ月に一回開催しサービスの実際、評価への取り組みに付いて報告や話し合いを行いアドバイスをもらっている。	○	推進会議では地域の情報交換も行っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回事業者連絡会議に出席しグループホームの情報提供を行っている。又市町村からの通達事項を順守しサービス向上を図っている。	○	地域包括支援センターから地域で暮らす高齢者で在宅生活が困難な方の情報等を共有して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度は折にふれ学んでいるが現在のところ対象者がいない。必要な時は十分な説明が出来るよう制度の理解を深める必要がある。	○	制度が必要な方がいたら十分な説明や代行が出来るよう理解を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体を通して虐待や身体拘束を行わないよう日常的に話し合っている。	○	高齢者虐待防止シンポジウムに管理者やスタッフが参加し意識向上を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を手渡し熟読の上契約している。又解約時には家族と十分に話し合い合意の上手続きする。	○	入居に関しては利用者や家族の思いを理解し、生活の場が変わることへの混乱を少しでも回避できるよう支援する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が管理者や職員に気軽に話すことが出来るよう雰囲気作りに心掛けている。又事例があった時はスタッフ間で話し合う。	○	利用者の意見や不満を謙虚に受け止め利用者の視点に立って考え、より良い介護を実践して行く。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶり面会時に行い緊急時には電話連絡や自宅訪問する。又写真入のたよりで近況報告している。	○	面会が少ない家族へは緊急時の連絡に限らず近況報告として利用者と一緒に電話を掛ける。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口にご意見箱を設置しているが投函される方が無いので広報で呼び掛けたり、面会時に意見を聞いている。	○	季節行事に家族を招待しているが、家族会の設置を検討して行く。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議を開き意見や提案を聞き必要がある事は前向きに捉え改善している。	○	介護の質の向上に基づくことはスタッフの意識の統一を図り即実践する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の変化により受診等が必要な場合も管理者や看護師が対応できるゆとりのある勤務体制にしている。	○	日常は往診してもらい、受診の時は状況により家族に同行を依頼する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染のスタッフが離職する場合は軽い認知症の方のみ直前に知らせる。知らせる場合は利用者へのダメージに配慮した言葉を掛ける。	○	離職した職員が再び訪問できる環境が大事であり、今までに数人遊びに来られたが利用者が笑顔で応対される。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの中には働きながらヘルパー資格を取得した人もおり、研修も必要に応じて1～2人ずつ参加できるよう計画してある。	○	認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修と段階を踏んで受講できるスタッフを育てたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回の事業者会議に出席し、グループホーム間で情報交換し、サービスの質の向上に向けた話し合いの場となっている。	○	町内のグループホームに限らず近隣の施設と情報交換できたらよいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間にリラックスできるよう休憩室にベッドが置いてある。又勤務体制の中で連休として休める状況を作っている。	○	スタッフがストレスを回避できるよう何でも話せる雰囲気作りを心掛ける。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の持ち味を活かし、やる気を引き出す働きかけを行っている。	○	介護に対する自身と誇りを持ち続けるよう指導を行う。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の思いを十分に受け止め安心した暮らしを追って頂けるようホームの内容を伝え不安を取り除き要望等を聞き入れる。	○	家族が入所を希望し本人が拒否される場合、自宅を訪問し馴染の関係作りから始める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が介護で困っている事等を良く聞きホームでの暮らしが理念に添った暮らしであること説明し理解してもらう。	○	利用者にとって暮らしやすい場所であるとの印象が与えられるよい雰囲気作りを心掛ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	認知症でないグループホーム入所希望者にはその方に合ったサービ スの情報を提供し、又他のサービス事業者に働きかける。	○	入所定員オーバーの場合、他の施設やサービスの 情報を提供する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	利用予定者には家族同伴でホームの見学をしてもらい、雰囲気 に馴染んでもらう。	○	利用者の中には家族の勧めで入所した方もあり で、ホームの生活の利便性を家族に理解して もらう必要がある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と楽しく会話し、利用者から昔の習慣や生活の知恵等教 えてもらい関係を築いている。	○	喜怒哀楽を共にする場合においても相手を尊重 した態度を見失わないよう心掛ける。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	利用者の日常生活を家族の面会時や電話などにより伝え介護 上での相談等を行っている。	○	病院受診が重なる時や病院嫌いの利用者へは家 族から直接説明してもらい受診して頂く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援 している	家族の希望ではあるが法事等に参加する為利用者を迎えに 来られることがある。	○	外出される利用者は日帰りが多いが外泊される 方もいるのでそのような家族関係は継続させたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	いきつけの氏神様の参拝や公園に昔の仲間に会いに行ったり 馴染みの場所へ出かける事を心掛けている。	○	利用者一人ひとりの思いに合わせて馴染みの 場所へ個別に連れて行くようにする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	利用者同士個性を尊重しあうことで過ごして おられるが難聴のため聞き取れずにいる ときはスタッフが仲介している。	○	難聴で意思疎通が出来ないことから利用者 間で偏見や誤解を生じないようスタッフが注 意深く見守る必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても家族からの要望がある場合は相談に応じている。	○	家族から要望があった時は情報提供できるように支援経過記録の保管は分かりやすく整理する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを反映させた暮らしを支援し、意思表示の困難な利用者へは本人の思いを察して要望に応じている。	○	利用者の生活暦や習慣を把握してより良い暮らしを支援するようスタッフ間で話し合う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個人の生活暦や馴染みの暮らしを尊重した介護を実践している。	○	利用者のプライバシーに配慮しながら本人に聞いたり、家族に尋ねるなどして情報を把握する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の個性に合わせて出来ることや出来そうなことを引き出し、日々いきいきと過ごせるように支援している。	○	利用者が楽しんで取り組むことが出来る環境を作ることがスタッフに求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議を開き本人の意向や家族の要望を取り入れた介護計画を作成している。	○	本人や家族が読んでも分かりやすい文章で作成するよう心掛ける。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しと共に身体状況の変化により関係者と話し合い随時見直しを行っている。	○	計画通り介護が実践されているか観察して行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が分かる個別記録に実践内容や気づきを記入し情報を共有して介護計画に反映させている。	○	食事量や水分摂取量その他記入漏れがないようチェック表を作成し記録の徹底を図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望がある場合は状況を確認し柔軟に支援する。	○	将来的には陣容を整えショートステイやデイサービスを検討して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	婦人会のボランティアや小中学生の社会体験学習など積極的に受け入れ交流を図っている。	○	2ヶ月に1回運営推進会議を開き地域の方々と意見交換を行っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて介護保険以外のサービスをケアマネジャーを通じて紹介してもらい家族の要望に応えるなどの支援をしている。	○	リハビリの必要性がある利用者へ訪問リハを受けさせられないか検討中。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月1回行政と地域包括支援センターとの情報交換を事業者連絡会を通して行っている。	○	解決困難な事例が出た場合は相談に乗ってもらえるよう日頃から良い関係作りに努める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族の要望を取り入れかかりつけ医を受診できるよう支援している。	○	利用者の健康面など気軽に相談できる関係を日頃から築いて行く必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の身体状況に合わせ、かかりつけ医とは別に脳神経科や精神科へ受診し、専門医の診断を仰いでいる。	○	専門医を受診する場合は家族の同伴を求めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し日常的に健康管理し、状態変化に応じて受診やDRへの相談を行っている。	○	看護師不在の時は申し送りや記録をもとに確実な支援を行い、緊急時は駆けつける体制をとる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は不安を和らげるよう面会し、病院関係者と情報交換し早期退院に向け支援している。	○	病院関係者からの情報は家族と共有し、家族の協力を依頼する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については家族と話し合い、かかりつけ医と連携を取るなどスタッフ全員が方針を共有している。	○	重度化しても介護が継続できるようスタッフの意識向上を図る。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の要望を取り入れ安心した暮らしが送れるようかかりつけ医の指示に従いスタッフの意識を統一して介護を実践している。	○	重度化や終末期に備えスタッフが心理面も含め対応できるよう知識の習得を図る。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が別の居所に移っても今までの暮らしが継続できるよう情報提供し、本人の混乱を防ぐよう努めている。	○	移住場所に慣れるまで家族やケアマネジャーを通じて情報を共有して行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない 利用者のプライバシーを尊重した言葉掛けや個人情報の取り扱いに気を配っている。	○	記録を読み上げる時は実名を使わずイニシャルで読み利用者へ配慮する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている 意思表示がうまく出来ない利用者へも表情や反応をキャッチし希望が叶うよう支援している。	○	難聴のためコミュニケーションが取りにくい利用者へボードを使い希望を表出させる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している 一日に流の中で体調にあわせ自分がやりたいことを自分のペースで行えるよう支援している。	○	家族の面会時は本人の希望にあわせゆっくり話せる場所を提供する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている 生活習慣に合わせその方に似合った服装を支援し、希望に応じて美容院へ同行している。	○	利用者のその日の体調や室温で衣類の重ね着を調節するなど細かい配慮を行う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている 食事作りが好きな利用者へはスタッフと一緒に台所へ立ち準備、配膳、後片付けまで共に行動している。	○	居室で食事を取る利用者がいた場合はスタッフが一緒に居室で食事を取るようにする。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している 買い物に出る時、利用者に声掛けて一緒にでかけ、おやつや好きな食材など選んでもらっている。	○	おやつを自己管理される場合の食べ過ぎや鮮度に目配りする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導を心がけ気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	オムツ対応者には時間を細かく決め交換して行く。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが本人の希望で柔軟な対応を行い入浴を楽しめるよう支援している。	○	利用者の希望で近くの温泉へ湯治に行くこともあり日程を調整し今後も取り組んで行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに添って短時間の昼寝や休息の支援を行っている。	○	夜間に居室で寝ることに不安がある利用者へはスタッフのそばで見守りながら休んで頂く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のやりたい事や好きな事を把握して日々の暮らしの中で引き出してやり、生きがいが持てるよう支援している。	○	料理の時、包丁など危険な物を扱う場合も見守りながら支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を希望される利用者へは家族と相談し、小額でも本人が納得できる金額を手持ちしてもらい買い物へ出かける時安心してもらっている。	○	スタッフ間で財布など紛失しないようさりげなく見守っていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分に合わせて天気の良い日など戸外へ散歩に出るなどの支援を行っている。	○	買い物などで外出する際利用者に声掛けして同行を求めるようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望や思いを尊重し、地域の行事などへスタッフと一緒に出かけられるよう支援している。	○	遠距離の支援は家族の協力を仰ぎ日帰り程度で支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が相手に届くよう援助したり、電話が掛けやすいよう子機を使用してもらっている。	○	難聴のため電話の取り次ぎが出来ない利用者へ筆談で電話の内容を伝える。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人など気軽に来て貰える雰囲気を作り、お茶などの接待をしている。	○	訪問者へは利用者との関係を尋ね、記録はスタッフ間で行う。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議などで身体拘束の弊害に付いて勉強し、全職員で身体拘束をしないケアを実践している。	○	利用者の安全が著しく阻害される場合は家族と相談し安全対策を練る必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人で外に出られる利用者にはスタッフが一緒に出るなどして鍵をかけないケアを行っている。	○	利用者が外に出たい気持ちを理解し、スタッフ間で意識の統一を図って対応をする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して利用者が良く見える範囲にスタッフがいて、安全や状況変化に気を配り暮している。	○	居室で過ごすことが多い利用者へは再三訪室し安全状況を確認する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は保管場所を決め、必要に応じてスタッフの管理下で使用してもらっている。	○	縫い物をする時は針の数を決めて使用し、最後に本数の確認をするなど安全に配慮する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐため一人ひとりに考えられるリスクを検討し、チームケアとして取り組んでいる。	○	事故やヒヤリハットがあった場合は報告や記録の徹底を図り再発防止に向け検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備えて応急手当や初期対応が出来るよう定期的にスタッフ間で話し合っている。	○	慌てず適切な行動が取れるよう定期的に訓練する必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時は近くの公民館への避難できるよう地域の人と連携をとっている。	○	災害発生時に的確に避難誘導できるよう、スタッフ間で意識を統一させる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者個々の起こり得るリスクに関して入所時や状況変化に応じて家族に話理解を得ている。	○	抑圧感がなく自由に暮せるよう利用者の安全に配慮していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調の変化や異変は主治医に連絡し、DR指示に従い適切な対応を施し、スタッフ間で統一した介護を行う。	○	状態の変化に応じた素早い対応が出来るよう日頃から医療機関と連携を密にしておく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の症状変化に伴って服薬状況の変更などがあった場合は看護師を通して用法、用量など詳しく説明し理解を求めている。	○	利用者が外泊される場合は家族に服薬状況を説明し確実な支援をお願いする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ便秘を予防し、適度な運動を促している。	○	頑固な便秘は主治医と相談し、下剤などを使用する際は状態観察して記録する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後洗面所に誘導し歯磨きの支援をしているが、磨き残しがある場合は再度磨いてもらう。	○	歯磨きの後は磨き残しがないよう確認し、自分で出来ない部分は介助する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食習慣を把握し栄養バランスや水分確保が出来ているか注意深く見守っている。	○	食事や水分の摂取量を記録して状態の変化に気をつけていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対してマニュアルを作り定期的に勉強会を開き、手洗いの徹底を図っている。インフルエンザは利用者、職員全員予防接種を実施している。	○	感染症予防対策の研修などに積極的に参加するようスタッフに働きかける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんはこまめに漂白して清潔にし、食材は新鮮で安全なものを使用している。	○	冷蔵庫や食器棚など担当を決めて衛生管理を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周辺にプランターなどを置き四季を通じて花が楽しめるよう工夫している。又、金魚やめだかを飼育して安らぎのある空間を作っている。	○	玄関は親しみやすく安心して出入りが出来るよう工夫する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のフローアは吹き抜けになっており圧迫感がなくゆったり過ごせ、生活感を取り入れるための観葉植物が落ち着いた感じになっている。食堂は3箇所テーブルを置きオープンキッチンで広く感じる。	○	共有空間は人が多く集まる所なのでいつも清潔にしておくよう心掛ける。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に別々の居場所を設け一人になったり、家族と水入らずで過ごすことが出来る工夫をしている。	○	他の利用者と別の場所で一人で過ごす時は見守りや話し相手になり利用者の思いを受け止める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたベッドや絨毯のほか飾り棚や仏壇まで持ち込んでもらい居心地良く暮してもらっている。	○	利用者の身体状況に合わせ、家具の配置や大きさなど家族と相談し、安全への配慮をする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が別の場所にいるのを確認し、居室の窓を開け空気の入替えをしている。室温は利用者の状況に合わせこまめに調節している。	○	冬季は共有空間に加湿器を置いて湿度にも気を配る。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全な動きが出来るようホーム内をバリアフリーにして、至る所に手すりを取り付け自立を支援している。	○	ホーム内で歩行器を使用される利用者の安全を確保する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホーム内に目立った傷や不安や混乱を招く物品がないか注意して、利用者が自立して暮せるよう配慮している。	○	利用者の活動意欲が低下しないよう混乱を招く物品などがあれば速やかに取り除く。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に一息つけるベンチやテーブルを置き天気の良い日など利用者と一緒に外気浴する。	○	玄関横に小さい菜園があり利用者と一緒に物づくりを楽しんでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がいきいきと自分らしく暮らしをしていくお手伝いをさせて頂き、安心とやすらぎのある生活が維持できるよう見守って行く